

令和7年度 第5学年

教科	前年度正答率（％） 【全国比（P）】	課題となる 観点	問題番号・出題のねらい ＜学習指導要領＞	前年度自校正答率 【全国比】	児童生徒の誤答の傾向と分析（○）、教育指導上の要因分析（●）	課題改善のための《指導場面（指導時期）》と具体的な取組	目標値	検証値
国語	教科全体	76.0【+6.1】	思考・判断・表現	15.4【-7.4】	○内容を捉えて、文章中のさまざまな情報の中から大切な文や語を捉えることが十分にできていなかったと考えられる。 ●大切な文や語となるものにはどんな特徴があるか、それを見付けるためにはどのような視点が大切かを理解させる指導が不十分であった。また、長い文章を要約する機会が少なかったことも考えられる。	《説明的な文章の授業（7月・11月・2月）》 「目的や条件に応じて文章を自分の言葉で再構成する言語活動」を位置付けた単元により指導し、文章全体の中での情報と情報の役割や相互関係について大まかに把握させたり、大切な文や語を捉えるための視点を把握させたりする。 《読書（通年）》 説明文を読み、要約したり、自分の思いや考えをまとめて書いたりする活動を継続して行う。	正答率 40%	％ 【P】
	知識・技能	78.7【+9.4】						
	思考・判断・表現	71.8【+5.8】						
	主体的に学習に取り組む態度	76.9【+11.9】						
社会	教科全体	【】	<>			<<（月）>>	正答率 ％	％ 【P】
	知識・技能	【】						
	思考・判断・表現	【】						
	主体的に学習に取り組む態度	【】						
算数／数学	教科全体	80.9【+12.9】	思考・判断・表現	30.8【-25.1】	○商に空位を含む筆算の仕方が定着していなかったと考えられる。 ●わり算の筆算の仕方が定着するような指導が不十分であった。また、筆算の中に出てくる数が何を表しているか、筆算の意味を理解させる指導が不十分であった。	《小数のかけ算・少数のわり算における指導（5月・6月）》 筆算の手順だけ覚えるのではなく、筆算の中でそれぞれの数が何を表しているのかを問い、筆算の意味を丁寧に指導する。 《基礎計算（通年）》 計算間違いがないように反復学習を行い、確実な計算力を身に付けさせる。	正答率 60%	％ 【P】
	知識・技能	82.1【+10.3】						
	思考・判断・表現	78.5【+18.6】						
	主体的に学習に取り組む態度	80.0【+26.2】						
理科	教科全体	66.4【+9.4】	思考・判断・表現	23.1【-36.3】	○骨と骨のつなぎ目で曲がる部分を関節ということは理解していたが、手のどの部分が曲がるのかを考えて、関節がどこにあるのかを理解できていなかったと考えられる。 ●自分の体の曲がる部分を全て確かめながら、どこに関節があるのかを確かめさせて、丁寧に指導することができていなかった。また、学習したことを根拠に、発展的な問いについて考える指導が不十分であった。	《実験や観察を伴う学習（通年）》 観察において触ることができるものは自分の手で触って確かめさせ、観察物や実験の様子をよく見るよう指導する。前時の実験結果や生活経験などを根拠に実験結果の予想をしたり、実験結果を根拠に自分の言葉で考察させたりすることで、学習したことを定着させる。また、実験結果を根拠に、発展的な問いについて考える時間を仕組む。	正答率 60%	％ 【P】
	知識・技能	76.3【+8.7】						
	思考・判断・表現	58.8【+9.9】						
	主体的に学習に取り組む態度	59.6【+9.0】						
英語	教科全体	【】	<>		○ ●	<<（月）>>	正答率 ％	％ 【P】
	知識・技能	【】						
	思考・判断・表現	【】						
	主体的に学習に取り組む態度	【】						